資料２－２

健康・医療研究開発データ統合利活用プラットフォームによる データ連携の進め方について

令和４年 11 月 18 日
健康・医療データ利活用基盤協議会

健康・医療研究開発データ統合利活用プラットフォーム（CANNDs）は、健康・医療分野におけるデータ連携の基盤として、AMED 事業全体から生み出される複数のデータベース等を連携し、横断検索機能を有するとともに、産業界も含めた研究開発にデータを扱う場(データを持ち込み扱えるセキュリティが担保された Visiting 利用環境)を広く提供する。

まずは先行的にいわゆる三大バイオバンク（BBJ（バイオバンク・ジャパン)、NCBN（ナショナルセンター・バイオバンクネットワーク)、TMM（東北メディカルメガバンク)）や全ゲノム解析等実行計画等にて収集されているゲノムデータをつなぐために開発を進めることとしている。引き続き、臨床情報も含む様々なデータとの連携と活用を進める。

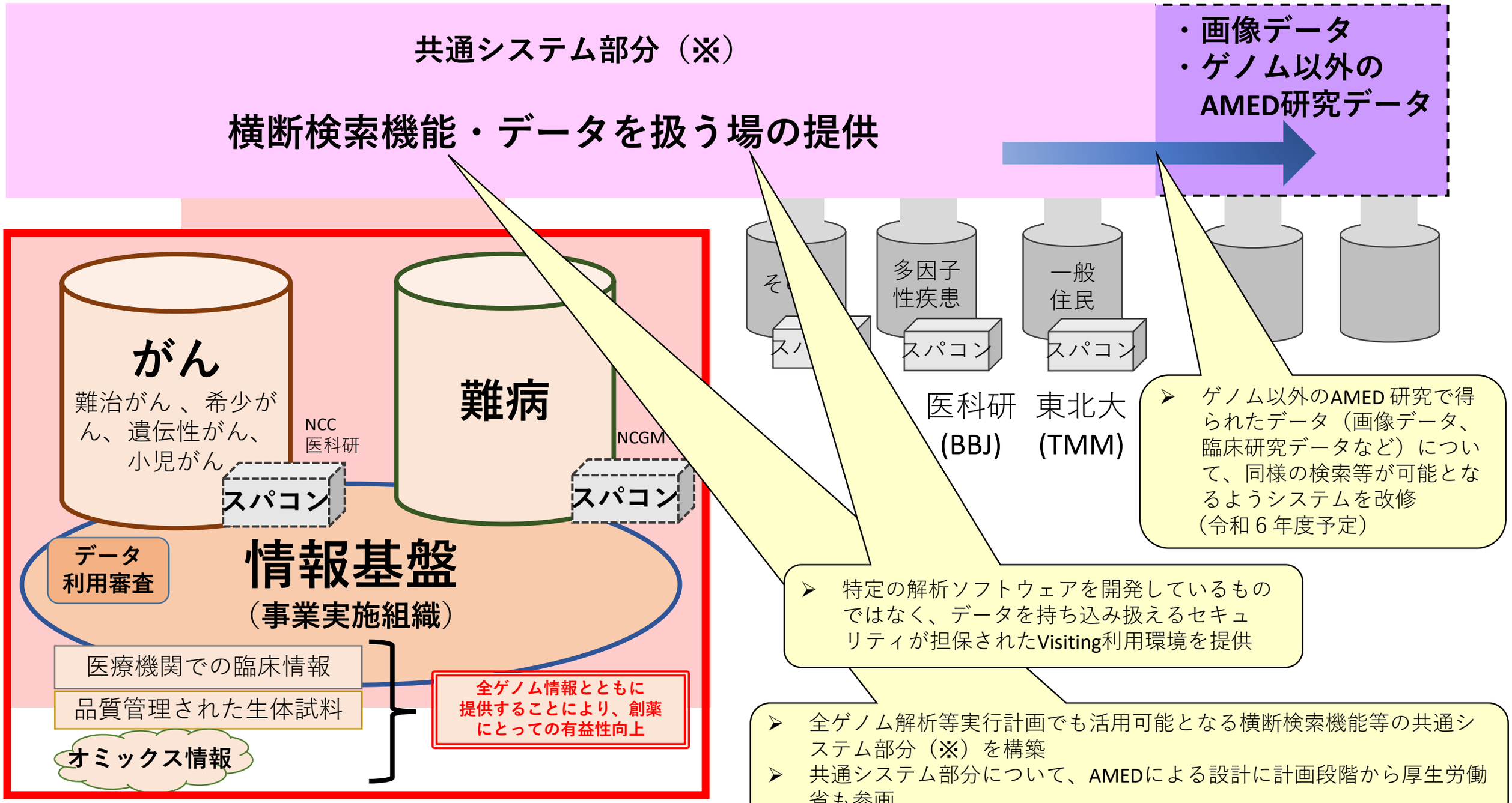
CANNDs の基盤機能開発において AMED は、データベースやデータ基盤、各種サービスとの連携を前提として、安全・安心の確保に留意しつつ、当初より柔軟性と高い相互運用性を持たせた開発を行う。基盤機能に含まれない特定用途のソフトウェアを必要とする場合には、その開発は当該特定の目的を持った事業にゆだねることとする。

AMED はデータベースやデータ基盤との連携を有機的に実現するために、開発内容や関連する調査内容等について、一般社会の理解を得られるよう、透明性の確保に留意し、いわゆる三大バイオバンクや全ゲノム解析等実行計画等の関係機関の参画を得て共通のシステム開発を進める。特に、AMED が全ゲノム解析等実行計画におけるがん・難病のデータを対象とした横断検索機能等の構築を行う際には、ユーザーサイドから見たインターフェースの一体化や共通の機能の提供を実現させるため、CANNDs の基盤機能開発における成果を活用する。

令和５年度・６年度に開発を必要とする要素についても、AMED は、現時点からデータ連携先の関係機関と議論を進める。令和６年度以降に連携が進む AMED 研究事業で得られたゲノム以外のデータ（例えば、画像データ、臨床研究データ等）については社会的要請の高いものから、質を担保しつつ順次連携を実施する。データ連携の拡充に伴う追加機能の開発において、当初開発する基盤機能をできる限り活用することで、コストを抑えるとともに迅速にシステムを改修していく。

内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省及び関係機関は、AMED のこれらの取り組みに最大限協力する。　以上

CANNDs連携基盤



（※）横断検索機能・ID管理/連携・同意管理・認証/ログ管理・統合ユーザーインターフェース整備等を想定

○　CANNDs（健康・医療研究開発データ統合利活用プラットフォーム）とは、AMED研究事業から生み出される複数のデータベースを連携し、横断検索機能やデータを扱う場を提供するプラットフォーム。

○　全ゲノム解析等実行計画において構築するデータベースについても、CANNDsを介した横断的な検索の対象となる。